

本物の音色を知ってほしい

社団法人鹿児島交響楽団 楽団長
しんむら げんしよく
新村 元植さん
Genshoku-Shimmura

「短大では、保育士や教育者を目標している学生たちに、音楽を通して子どもたちとコミュニケーションをとる技術を教えています」と語るのは、鹿児島女子短期大学の准教授であり、鹿児島交響楽団の創立メンバーの一人で、本年5月に新しく楽団長に就任された新村元植さん。

鹿児島交響楽団は、鹿児島における本格的な交響楽団として、昭和48年3月に創立。年2回の定期演奏会のほか、小中学生のためのファミリーコンサート、県下各地での訪問演奏や青少年のための音楽教室などを積極的に行うなど、地域に根ざした音楽活動を続けている。

新村さんに、鹿児島交響楽団での活動や音楽に対する想いなどを語ってもらった。



地域に根ざした シンフォニー・オーケストラ

新村さんにとって音楽とは

もともと小学生のころからなぜか歌うことが好きで、学芸会などでもよく歌っていました。中学生になり吹奏楽に出会い、トランペットの魅力にひかれ、本格的に音楽を始めました。

トランペットを始めた当初は、当然のことながら全く吹けませんでした。どうして音が出ないのだろうというところから始まりましたが、うまくなくてもみんなが一緒に練習しようという雰囲気があったのはラッキーだったと思います。

また、当時からクラシック界のトランペッター奏者として世界的に有名なモリス・アンドレのレコードを聴き、どうしたらあんな風に吹けるのだろうとあこがれていました。

今は、音楽を仕事にしてはいますが、私にとって音楽とは、生活の中にとけ込んだ趣味とか仕事とかの区別ができない存在になっています。だれでも何か一つは好きなものがあると思います。たまたまそれが私にとっては音楽だったということです。

鹿児島交響楽団の活動を教えてください

6月と11月に定期演奏会があり、それに向けた練習を毎週火曜日と木曜日の夜に宝山ホールで行っています。団員はそれぞれが別の仕事を持っているので、仕事との時間的な両立が大変です。その中で一人一人が自身の音楽を高めようと頑張っています。その個々の頑張りや、オーケストラとしてのレベルアップにつながっています。練習は大変です



本番さながらの張り詰めた空気の中、真剣な表情で練習している楽団員たち。「楽団員の中にはプロとして活躍する人も出てきている。そういう人がもっと増えるようバックアップしたい」と新村さん。

が、演奏会を終えることに、それまでの練習の苦労が報われるので、自分にとっての精神的ないやしになっています。人生には達成感が必要だと思っていますが、一回の演奏会が終わるたびにそれが得られるので、気持ちの面で若返れるのだろうと思います。

また、定期演奏会以外に地域活動の一環として県内各地で行っている音楽教室などを通して、子どもたちとふれあう機会があります。そこには、私たちの演奏に目を輝かせる子どもたちがいます。幸運なことに、最近の学校にはなにかの楽器がある場合が多いのですが、その楽器の本当の音色を知っている子どもは、ほとんどいません。その意味で、私たちが、実際に生で子どもたちに本物の音を聞かせることで、音楽に対する興味・関心をふくらませてもらえればと思います。

海外公演も行ったことがあるそうですが

鹿児島交響楽団の30周年の記念イベントとして、平成15年12月に鹿児島市と姉妹都市盟約を結んでいるイタリアのナポリ市にあるサン・カルロ劇場で「ナポリ第九公演」を行いました。計画当初は、そんな大それたことをという思いもありましたが、県民のみならずの温かい援助もあり、この公演には、オーケストラと合唱団併せて280名が参加し、大成功をおさめることができました。

実現するに当たっては、口では言えないくらい苦労がありました。初めての海外公演で、しかもイタリア三大劇場の一つであるサン・カルロ劇場で演奏できたことに、出演者一同感激し、私自身も一生忘れられないものとなりました。この海外公演以外にも、岐阜県との交流なども行っており、今後とも県内外を問わず、機会があればいろいろな所で、さまざまな方との交流を大切にしていきたいというのが私たちの目標の一つです。

これから音楽を志す方へアドバイスを

まずは、自分が何が好きなかを見つけてください。それが音楽であれば、仕事とか趣味というところにこだわらなくて、ずっとかかわるうという気持ちを持ち続けることが大切です。日本では、人から「これがあなたには合っているから」と強制されがちですが、そういうことではなく、自分は何が好きなか、それが仕事につながらなくても、最終的にはそれが自分の人生を豊かにしてくれます。好きなことをしている時は、人は充実した時間を過ごせるわけですから、努力というよりも、その時間を楽しむことができるのです。

子どもに対しては、まずは褒めることだと思います。子どもたちが好きなことに一生懸命チャレンジしている姿を褒めてあげない

と伸びることはありません。それと自分の型にはめようとしないことです。子どもたちは、まだ自分の将来の姿が見えないかもしれませんが、それを型にはめずに、良いところを伸ばしていく。難しいことかもしれませんが、まずはやりたいことをやらせてみることです。

今年は霧島国際音楽祭にも初参加されるということですが

音楽イベントとしては、日本でもしにせである霧島国際音楽祭のオープニングコンサートに誘っていただけに感謝し、意義を感じています。何とか成功できるよう頑張りたいですし、今後協力できればと考えています。

私たち鹿児島交響楽団は、鹿児島の地域のオーケストラとして、これからも県民のみなさんに親しみをもちてもらえるよう努力したいと思っています。



本年6月21日に開催された第72回定期演奏会の様子。演奏会では、観客の方々により楽しんで欲しいという思いから、アランフェス協奏曲や組曲「仮面舞踏会」などのなじみ深い楽曲が選曲されていた。